



学校法人 鶴川学院
農村伝道神学校
発行人: ロバート・マウ
ウィットマー

玉山神学院との交流

交流実習感想

二〇一九年七月



玉山神学院
王月花 (アピン)

日本での一ヶ月の実習の機会を与えてくださった神に感謝します。今回の実習を準備してくださった農村伝道神学校校長、教員、職員の皆様にご感謝します。交替で食事を用意してくれた学生の皆様に感謝します。農村伝道神学校に来て、神の愛を感じました。まるで家族のようでした。

農場のように静かで、森林を感じられ、空気のさわやかさは台湾の田園と似ていて、心地よく心温まりました。

一日目は神学校での礼拝に出席し、アボンがどのように召命を受け神学校で学ぶようになったかを分かち合いました。

た。そのあとで校長先生が学校を案内し、学校の歴史を紹介してくださいました。手厚いもてなしに感謝します。

実習の第一停留所

寿町では、アルコール依存者への支援の責任者をしている女性から話を聞きました。夫とともにアルコール依存症であった彼女自身の様々な体験から、現在、寿町で自分と同じアルコール依存者の支援に携わっていると聞いて感動しました。

約三〇〇人の仕事のない人が一緒に食事をし、異なる教会と一緒にこの仕事を進め、六十数人のボランティアと一緒に、野菜を洗うことから最後の食器洗いと後片付けまで行います。夜には駅の近くのホームレスを見回り、ベテランのボランティアから話を聞きました。わたしが感動したのは、こんなに大勢のボランティアが、団結してこの仕事をやり遂げ、二十六年も続けることができたことです。三森妃佐子牧師の導きにより、

安全保障関連法廃止！
辺野古新基地建設反対！

宗教にかかわらず、意思さえあれば、この仕事のない人のための働きに加わることができると一層感動しました。

三森牧師とボランティアの人々に、引き続き能力が与えられますように。バザーは一ヶ月に一回の活動です。バザーの売り物は高くなく、ある父親は一〇〇〇円で自分と家族の分を買って、ずっとボランティアたちに感謝していました。その嬉しそうな表情が、ボランティアたちにとって達成感となったことでしょう。わたしが目にしたことは、

寿町で、三森妃佐子牧師とボランティアたちが生活に困難を抱えている人と向き合い、いつか彼らの生活に変化が訪れるように手助けしていたことです。まさにイエスが言った、「必要としている人にしたのは、わたしにしてくれたこと」です。

実習第二停留所

大阪教区の小林明牧師がわたしたちを連れて、日本基督教団の石橋秀雄総会議長をは

じめ、総幹事や牧師たちを紹介してくれました。短い時間でしたが、台湾基督長老教会に属する神学校から来た私たちの日本での実習を歓迎してくれているのを感じることができました。台湾基督長老教会が日本が地震・津波の災害の際に支援を行ったことへの感謝がありました。神の愛により台湾と日本に良い関係があることに感動しました。そのあと、小林明牧師がわたしたちの大阪教区への飛行機での移動に付き添ってくれました。大阪に着いたときはすでに遅い時間で、小林明牧師が心を込めて夕食を準備してくれました。日本にこんな優しい男性がいたことに感動しました。

わたしたちは、日本基督教団神戸聖愛教会に到着し、林美恩牧師と会いました。香港の教会からの宣教師で、この二日間には彼女が通訳をしてくれました。林美恩牧師は、主に児童と青少年への働きを担っていて、また毎月第二土曜日の「せいあい善隣カフェ」の責任者でもあります。これはコミュニティのなかの比較的困難を抱えている家庭に対するものでした。そのあとで、阪神淡路大震災と津波による災害という異なる災害について見学し、心が痛みました。そ

れから大阪の街を見ました。人が多かったです。小林明牧師と林美恩牧師がわたしたちを支援団体の人たちに引き合わせてくれました。支援団体のメンバーがわたしたちに日本の寿司の作り方を教えてくれました。私は作ったことがなかったので新鮮な体験でした。手が熱いけれど、学ばねばなりません。そのあと、帰る家のない中高年者がたくさんいるところを訪れました。かつては数えきれない建築・建設に関わっていました。中高年になって雇用されなくなり、その多くは地方の出身で、現在は仕事も収入もないので、故郷の人々に会わせる顔がなく、都市に留まらざるを得ない状況です。都会で空間があれば段ボール箱を組み合わせて寝泊りしているのを目にし、心が痛みます。人の生活に必要な基本的なものです。私は路上に住む彼らを目の当たりにし、神様に文句を言いました。神様、彼らをこのように生活させていることにどんな意味があるのでしょうか。そして私は泣き声を挙げました。神よ、どこにいるのか。あなたはイスラエルの神で、また台湾の神でもある。日本の人たちの神でもあるのではないですか。

わたしはあの心が痛む光景を忘れることができません。そんな中で支援団体のメンバーの姿を見て感動しました。彼らはすでに亡くなった老牧師の影響を受けているのだそうです。その老牧師は、これらの仕事のない人々が段ボールで暮らしていることについて、日本人が責任を持つべきだと語ったそうです。それをこの支援団体のメンバーが続けているというわけです。それから、小林明牧師に連れられて、交代でこの支援団体の働きを支援している食堂に行きました。韓国の教会および韓国人の住むエリアに行きました。小林牧師によれば、ここに住んでいる韓国人はすでに五十年も住んでいるのに、日本は彼らを認めることができないでいるそうです。このことも部落解放センターが心を留めている事項であるということです。

実習第三停留所 名古屋にて

名古屋でホームステイしたのは、夫妻が主を愛し、また台湾人を愛する家庭でした。彼らはこれまでに数えきれない台湾人をもてなしています。手製の夕食で私たちをもてなしてくれましたが、まるでホテルの料理のようでした。この家の長女は台湾で暮らした

ことがあるということ、たぐさんの台湾人と知り合っていました。前に神学院の先輩が名古屋に来た時もこちらに泊まったそうです。南山教会では、台湾の女性で結婚してこちらで暮らしている人がいたので、通訳をしてくれました。その後、ご主人がわたしたちを観光ポイントに連れて行ってくれました。教会の役員が経営する大きな農場があり、私たちはアイスクリームも食べました。わあ、おいしい。鳴海教会で主日礼拝に出席し、私が証しをしました。会員は三十名で、日本ではもう中型教会に入ります。会堂は今年になって完成したばかりで、快適でした。

東のぞみ牧師が二つの機構の見学に連れて行ってくれました。心が感動で満たされました。名古屋での四泊五日の時間は過ぎるのが速かったです。ここには優れた景観の建物があり、生活のリズムがゆったりとしていて、さらに人の温かみも深く、我々原住民の味わいがあった、熱心なもてなしがありました。残念なこと、私たちは旅の身なので、やはり名古屋を離れなければなりません。

実習の第四停留所 北海道にて

北海道に来て、多くのことを学び、重圧を感じずに休暇を過ごしているみたいで、私は北海道の全てが気に入りました。台湾と似ているからです。デイヴァン牧師が日本キリスト教団美馬牛福音伝道所に連れて行ってくれました。わたしたちが教会に着いたときには、会員が豪華なジンギスカンを準備していて、もてなしてくれました。それからこの牧師が散策に連れて行ってくれました。一面の麦畑。まるで黄金が敷きつめられているかのようです。この教会では、ある八十歳の会員の教会への忠誠を目にしました。彼は幼いころ、外国から来た宣教師の影響を受け、さらに母親と兄の導きで現在のキリスト教信仰にたどり着きました。もともと教会の会員は少なかったのですが、数年前は会員数四人でした。彼と妻、娘と娘の義理の父です。残念なこと、娘の義理の父が病気で亡くなり、すると娘も教会に来なくなり、残ったのは二人だけになってしまいました。会堂が古くなり、再建が必要でしたが、費用はどこから来るのでしょうか。幸いなことに、教区と一緒に負担することになり、二〇〇九年に今の会堂が献堂されました。本当に神に感謝します。

この先輩によれば、教会のローンは自分たち夫婦が少しずつ返済し既に済んでいるそうです。この教会をこのコミュニティに存在し続けさせてくださった神様に感謝します。現在、すでに一〇名の会員と若い牧師がこの夫婦とともにこの教会で奉仕しています。

名寄地区に到着しました。今日の実習の内容は士別教会で証しをすることです。教会の会員は一、二名しかいません。いろいろとあって、もとは教会を閉じるといふ考えがあったそうですが、この地区の牧師たちは、教会を閉じることが神の栄光を顕すことができず、神も望まれないことだと考えました。そこで一緒に心をついにして、このような教会が集会を続けることができるよう祈りました。それで彼らが思いついたのが、牧師たちが交代でこのような教会で集会を持ち、なおかつ教会で心を動かされた会員を連れてきて一緒に集会を行うという方法です。牧師たちはそれぞれ責任を持つ教会があり、日曜日はこれに充てられません。ですから毎週木曜日の午前中にこの集会を行うことにしました。

名寄教会での集会は、アポロンが説教をし、デイヴァン牧師が通訳しました。この教会

はすでに一〇〇年余りの歴史を持ち、集会に出席したのは約二五名でした。そのあとで出席者が一緒に食事をし、会員たちがわたしたちに讃美歌をうたつて聞かせてくれました。ある年配の女性がわたしたちのために一万円献金してくれました。私はとても感動しました。この教会のすべての会員の神のための奉仕を神が祝福してくださいように。

豊岡教会にも泊まりました。礼拝堂がとても大きかったです。私たちは地区の牧師会に出席して、来年の働きについての討論を聞きました。牧師たちは自分の考えを発表した後で、多数になった考えを採用していました。豊岡教会には幼稚園があり、0歳から六歳までの子どもを受け入れています。現在百名あまりの園児がいます。牧師が園長を担当し、毎日、それぞれの組で十分間の小型礼拝があります。月一回の大きな礼拝は園長が分かち合いをします。彼らのこのような礼拝を目にして、教会がこういう方式で子どもたちや先生がたを福音に接するよう導くことができることに感動しました。本当に素晴らしい奉仕です。

三浦忠雄牧師がわたしたちを留萌地区に連れて行ってくれました。午後、七人くらい

の小学生がやってきました。三浦忠雄牧師のガキ大将ぶりを目にしました。彼と子どもたちはよくコミュニケーションが取れていて、彼らとともに遊んでいましたが、子どもたちはとても活発でした。デイヴァン牧師は私にマントウの作り方を教えてくれました。宣教師になるのは本当に簡単なことではありません。まだまだたくさん学ばなければなりません。

先住民が住んでいるところを見ることはできるかとデイヴァン牧師に聞くと、今は和人の生活と同じになっていて、本人がわかるだけであり、その言葉も耳にすることは無いということでした。これを聞いてとても悲しくなりました。先住民はこうして次第に消えてしまうのでしょうか。先住民の言葉が失われれば、伝統文化も失われてしまいます。デイヴァン牧師が語ったように、こちらの先住民、とくに若者が自分たちが先住民であることを認めなくなれば、将来、日本で先住民が存在し続けることはできなくなりそうです。わたしは真駒内教会で説教を担当する機会を得ました。テーマは生命の海へ出航するというものです。わたしたちひとりひとりが自分の生命の海を持っていて、その海は時

に穏やかで時に荒れ狂うのだと思います。でもイエス様がずっとわたしたちと同じ船の上に共にいてくださり、私たちに起こる出来事にはそれぞれに神の御意思があるのだと信じます。デイヴァン牧師と日本人たちが、異なる生命の海に直面して無事に乗り越えることができるよう神の祝福がありますように。北海道の議長、副議長および地域の幹事との食事の際に、牧師たちから私たちにどうして神学院で勉強しようと思ったのか、また日本の教会と台湾の教会はどこが違うか、という質問がありました。彼らからも、日本の教会のさまざまなタイプについて話がありました。たとえば都市と地方における違いです。そうすると日本と台湾の違いも文化と関係があるのでしょうか。そのあと彼らは私たちが学業を完成できるように励ましてくれました。彼らのわたしたちへのものも V I P に対しても感動しました。していただききました。北海道を離れるのは名残惜しかったです。ここには台湾原住民ブヌン族の宣教師デイヴァン牧師がいて、彼女が日本人と話している様子、簡素に生活している様子のなかに、私は神が彼女に賜った恵みを見まし

た。彼女の日本での宣教が力強く歩み続けることができるよう祝福します。

「新入生紹介」



座間直哉

神様、讃美致します。

僕は、一九八五年四月一日に難産のすえ母が産んでくれました。一九八九年四月、日本基督教団相模原教会附属の相模白ゆり幼稚園に入園しました。一九九二年三月に卒園しました。そして二〇〇六年四月一六日に、その教会で洗礼を受けました。僕の名前を検索すると、その時祝って貰った記事が残っていました。
http://sagamiseinen.seesaa.net/page/user/article?article_id=16692568

色々あってこの神学校には一人で勝手に来てしまいました。が、ここで関わった方たちはみんな本当に親切にして下さいました。ありがとうございます。このことは絶対に忘れません。神様、みなさんをお守りください。僕の好きな

農村伝道神学校

「修養会」

二年 鳥潟紘一

映画は、ゴジラ、ターミネーター、リング、呪怨です。好きな漫画は、ハンターハンターです。好きな食べ物はバナナです。よろしくお願い致します。

七月十日修養会にて、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(WAM)を訪れた。アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(WAM)は、戦時性暴力、とくに日本軍慰安婦制度に焦点をあてた資料館として活動を行っている。館長の渡辺美奈さんより展示等の説明を受け、その後質疑応答のときをもった。資料館を訪れ最初に目を引いたのは壁一面に掲げられた女性たちのポートレート。沈黙を捨て被害体験を公表することを選んだ各国の女性たちである。単なる顔写真ではない。性被害という事態の、特別に言いにくい側面を理解しなければならぬ。展示コーナーに入れば個々人の証言と出会う。気が滅入った。性交渉を知らない十代の少女が、列をなす兵士たちの相手を強いられる。身体は監視され、管理される。

脅迫、強姦、性病、自殺、妊娠、出産、中絶、暴力があった。「強制はなかった」と言われる。誰にとつての、何にとつての方便か。「戦争状態が悪い」、「戦争に慰安所はつきもの」、「日本だけの話ではない、他国も同じことをした」といった主張に意味は感じない。立ち向かいたいのには自らの足もとである。自分が知る歴史、自分が立つ社会、自分が作る国を今一度検討すべきかもしれない。この私は、この歴史をもつ、この国の一人として、隣人を探したことがあったか。きれいな歴史のきれいな国のきれいな一人として、隣人から目を背けていなかったか。そして、十代の少女に列をなす兵士たちのなかに、果たして自分がいはいないか。WAMの基本理念の一つに「国境を越えた連帯活動を推進する」というものがある。慰安婦とされたのは、韓国朝鮮人女性だけではない。アジア、ヨーロッパ、日本人もいる。昨今慰安婦の問題がまるで国と国の外交問題のように扱われるなか、この理念は本質に目を向け直させる。国という大きな視点からはぼやけてしまふ個人への眼差しである。WAMには個人の声があった。個人の証言で埋め尽くされていた。これを見れば、証拠集

めの証言とは違うことを思い知らされる。「これだけ多くの証言があるから事実なのだ」というだけの話ではない。この証言の一つ一つが、被害者が声を上げられることが、その声に聞くことが、それ自体大きな目的であるように思えてくる。痛みにも国境はない。被害女性たちの、国境を越える勇気が差し迫ってくるようだった。

後事報告

▼七月一日(三日)
神学科同窓会総会 愛知県まるは食堂旅館にて。

▼七月一日(三十一日)
玉山神学院より二人の学生を迎えて交流プログラム。

七月二日(火) 午後五時。玉山神学院学生歓迎会を行った。

▼修養会 七月十日(水)
内容・WAM(アクティブミュージアム 女たちの戦争と平和資料館) 見学と講演

講師 渡辺美奈(わたなべみな)さん WAM館長
(オプシオンでNCC教育部平和教育資料室、マイノリティ宣教センターを訪問)

(講師に勧められたDVD数本を翌日、有志で鑑賞)

▼七月中旬より九月上旬にかけて下記の通り夏期実習を行い、学生を派遣した。
齋藤織恵・高森草庵

松永明夫・日本基督教団水口教会
横内美子・日本基督教団波田教会
清野量・広島キリスト教社会

下園昌彦・日本基督教団竜ヶ崎教会
稲益久仁子・日本基督教団碧南教会、みんなの伝道協議会

松本吉氏光・日本基督教団部落解放センター、共働学舎

理事・評議員会報告

六月(八月)の報告事項を記す。ウイットマー校長は昨年来、各地の教会を積極的に訪問し、説教や講演の要望に応え、その数、二九教会をこえる。

キリスト教学校、各教区の信徒研修会などの依頼にも応え、特に農伝の新たな神学教育の取り組みやカナダ合同教会の

働きについて講演する機会が増えている。

「二日座禅会」も、回を重ねるごとに参加者が加わり好評を得ている。六月には「戦争責任シンポジウム」が講師に

関田寛雄先生を迎えて行われ、外部からも参加者が大勢あった。恒例の玉山神学院交流プログラムには二名の神学生が

来校し、七月一日から三日まで滞在し、各地で交わりを深めた。修養会はシンポジウムに関連したテーマで開催され、講師はWAMの渡辺美佐氏、NCC教育部の比企敦子氏、マイノリティ宣教センターのD・マツキンツッシュ氏が担当した。休暇中の実習報告

会は一〇月三日に実施。後期授業は一〇月八日から始まる。

シオン幼稚園は認定子ども園として二年目を迎え、制度移行に伴って懸念されていた「保育の質」について、職員間の協力で保持する営みが継続されている。七月には恒例の「夏のキャンプ」がYMCA

山中湖センターで行われ、雨天にもかかわらず、キャンプ生活を楽しんだ。八月末には職員研修の報告会を開き、休暇中の研修の成果を分かち合った。九月から転入希望が複数あるが、縦割り保育を継続するために人数を限定し、検討しているとの報告があった。

なお、一〇月からの「幼児教育・保育無償化」に伴う行政手続きの変更のために園則の一部を改訂した。

法人からは記念募金について

十月十九日(土) 農伝デイ・オープンキャンパス

午前 十時～午後二時
午前 十時半～十一時半
講演会…「教会ってどんなところ?」神の国がここに!

講師…飯塚拓也氏 滝ヶ崎教会牧師
交流 など

十月七日(月) 九時～十六時
一日座禅会
講師…佐藤研氏

—— 2020年度入学案内 ——

◆受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆入学願書受付

- 第1回 2019年10月8日(火)～11月8日(金)
- 第2回 2020年1月7日(火)～2月7日(金)

◆入学試験日時

- 第1回 2019年11月19日(火) 午前9時～午後3時
- 第2回 2020年2月18日(火) 午前9時～午後3時

◆会場 本校教室

◆入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024
Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
振替番号
農村伝道神学校 00160-6-18485
農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

お知らせ

ては順調に集まっており、記念誌を年度内に刊行する予定である。後援会からは九月一六日に鶴川北教会、二二日は日野台教会で農伝支援のための校長による講演会、バザー開催などの案内があった。
(書記…本田栄一)